

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こども発達未来スタジオippo木原教室 放課後等デイサービス

公表日 令和8年3月12日

利用児童数 5

回収数 5

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	4			普段の活動中の様子を見たことがないため。	個別支援計画の更新時や送迎時の短時間見学、あるいは事業所開放日等の設定を検討し、実際の活動環境を直接確認できる機会を創出する。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	3	1		1	普段の活動の様子が見えにくいという課題に対し、写真や動画を活用した「活動報告」の頻度を上げる。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	3	1		1	クールダウンが必要な際のスヌーズレyn的な空間（カムダウンエリア）の活用状況について、個別支援計画の振り返り時に具体的に報告していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	5				照明の明るさ調整や、お子さまがリラックスできるクッション等の備品を適宜見直し、家庭的な温かみと、療育的な機能性を両立させた空間づくりを推進する。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	5				感覚統合療法等の専門的知見を活かし、身体遊びや集団レクリエーションの中に、個別の発達課題を自然な形で組み込んでいく。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	5				現状の評価に満足することなく、児童の発達段階や特性の変化に応じ、支援プログラムの有効性を適宜検証する。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	5				多角的な視点からお子様を多面的に理解し、ご家庭と足並みを揃えた支援計画の作成・更新を徹底していく。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	4			1	日々の支援内容が、計画に基づいた「本人支援」や「将来の移行支援」にどう繋がっているかを、定期的なモニタリングや日々の連絡帳を通じて具体的に共有する。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	5				日々の送迎時や連絡帳を通じたタイムリーな情報共有を継続し、支援の意図や進捗状況をより具体的に可視化していく。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	4			1	職員間でのケース会議を定期化し、プログラムがマンネリ化しないよう、常に新しい手法や教材の導入を検討する。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	2		1	2	近隣の児童館等の行事予定を把握し、合同活動や交流の機会を積極的に模索する。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	5				利用者負担額の改定や支援プログラムの更新が行われる際には、口頭での説明に加えて視覚的に分かりやすい資料を提示し、保護者が常に最新の情報を把握できるよう努めていく。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	5				細かな変化や成長のプロセスを保護者様と共有する機会を確保し、支援の方向性について常に共通認識を持てるよう努める。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1		1	3	保護者同士の悩み共有や情報交換を目的とした茶話会や交流会を企画する。専門職による講話とセットにすることで、学びと繋がりの両面から支援を強化する。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	5				現状の密な連携を維持しつつ、こどもの小さな変化や成長の兆しをより解像度高く共有できるよう、スタッフの観察力と伝達スキルの向上を図る。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	3	1		1	環境変化の大きい時期にある家庭に対しては、事業所側から積極的な声掛けを行い、孤立感を与えない支援を継続していく。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	5				保護者との連絡帳や送迎時の対話を重視し、単なる活動報告に留まらない「心の機微に触れる支援」を徹底する。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	1	1	1	2	保護者が希望する交流の形態（茶話会形式、専門家を招いた勉強会、SNS等での情報共有など）や、開催可能な時間帯について詳細なアンケートを追加実施する。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	4	1			即答が困難な事案についても、「いつまでに回答するか」という期限を明示し、保護者の不安を払拭できるよう進捗状況の報告を細やかに行う。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	5				常に保護者の視点に立ち、伝達漏れや誤解が生じないように、確認工程を丁寧に行う。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	5				一方的な情報発信に留まらず、保護者からの意見や要望を随時取り入れられる体制を整え、より満足度の高いサービス提供へと繋げていく。

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	5					アクセス権限の定期的な見直しとパスワード管理の強化を行い、外部漏洩のリスクを最小限に抑える体制を維持する。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4			1		消防訓練、防犯訓練、感染症シミュレーション等の実施後は、その様子を写真やレポートにまとめ、事業所内に掲示するとともに、保護者へ活動報告として共有する。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3			2		どのような想定で、どのような動きを練習したのかを具体的に伝えることで、安全管理体制への理解を深める。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	5					ヒヤリハット事例の収集と分析を徹底し、事故の未然防止に向けた職員研修を定期的に行うことで、より強固な安全管理体制を構築していく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5					怪我の大小にかかわらず、発生直後の「第一報」を最優先に行う体制を継続する。客観的な事実（いつ・どこで・なぜ・どのように）を整理し、保護者の不安を最小限に抑える説明を心がける。
	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	5					全職員が共通の理解を持って一貫した対応を行うことで、どの職員が担当しても子どもが等しく安心してける体制を構築していく。
満足度	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	4	1				画一的なプログラムではなく、子ども自身が「自分で選んだ」という自己決定感を味わえるよう、活動内容の選択肢を増やす。主体性を尊重することで、通所そのものへのポジティブなイメージを醸成していく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	5					事故防止対策や衛生管理を改めて見直し、子どもたちが安全に、かつ意欲的に活動できる環境整備を継続して行う。